

2. 写真で見る50年の足跡

1974～2011



起工式当日（1974年10月23日）



研究実験棟



研究実験棟正面（中央〔表示はページ内位置，以下同様〕），3階第5実験室（左下），2階会議室（右下）



調査船・2代目弥生（1984年竣工）



調査船・2代目リアス
（1993年～2009年）



調査船・3代目弥生（左中）とチャレンジャー三世（右下）
いずれも2011年の津波により消失.



2011.3.11



15:51

17:30



津波は研究実験棟3階（左中）まで到達。屋外水槽の一部と蓬莱島への突堤は流出（右下）。





被災直後の1階事務室（左上），2階教員室（右上），3階廊下（左中）。津波は3階の大人の腰程度の高さまで到達。



共同利用研究員宿泊棟（左下）。食堂のテーブルや椅子などは流出（右下）。

2011～



濱田純一総長（当時，右側）
による被災状況の視察
（2011年4月8日）



大槌町城山の中央公民館に復興準備室を設置
（2011年5月2日）



瓦礫の撤去と内部清掃を経て（左中，2011年5月27日），研究実験棟3階のみを整備（左下，北側の実験室；右下，壁と床を塗り直した廊下）。





備船による震災後最初の
湾内調査
(2011年5月26日)



グランメーユ進水後,
初の共同利用研究調査
(2011年8月25日)



4代目弥生進水式
(2013年11月12日)



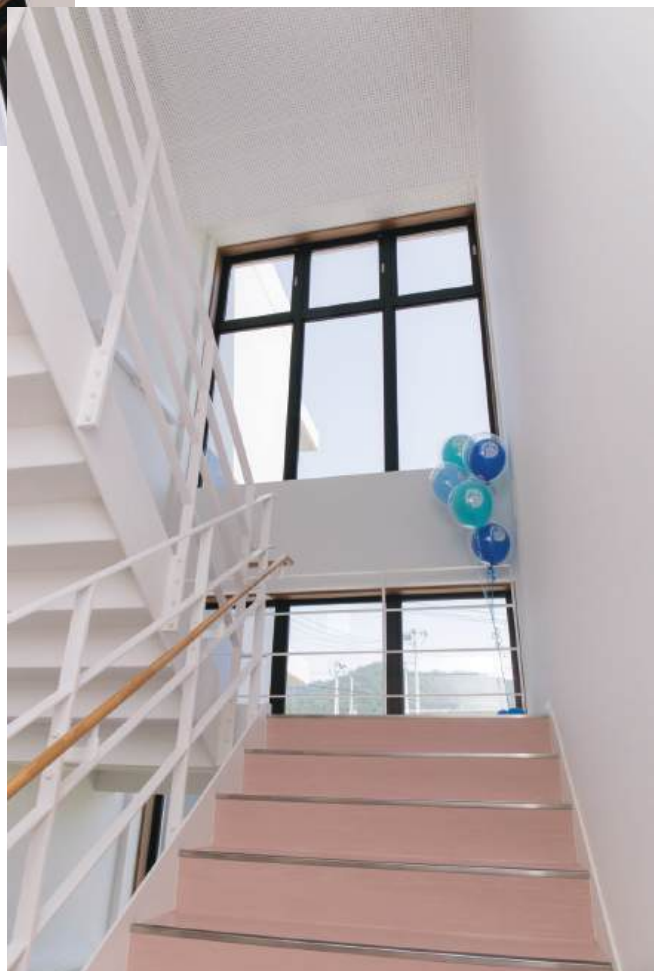
震災後初の一般公開（2015年7月17日；写真は旧飼育室でのタッチプール）。前日には町内の小学生を招待（中央）。



山側の敷地に新しい研究実験棟の建設を開始（2017年12月）



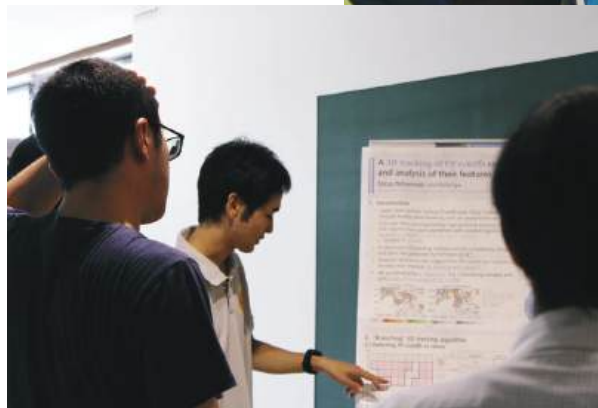
新しい研究実験棟（上；2018年竣工）とセンター施設群のある赤浜地区（中央，ロの字型建物が共同利用研究員宿泊棟，道路を挟んだ右側が研究実験棟）。係船場も整備され（左下），この後，順次，係船場にクレーン設置，新調査船 ESPERANZA 進水。



研究実験棟エントランスの天井画「生命のアーキペラゴ」（左上），研究実験棟入り口（右上），1階実験室3（左下），研究実験棟内階段（右下）



共同利用研究員宿泊棟入口（左上），ドミトリー（左中），一人用居室（右中），食堂（右下）



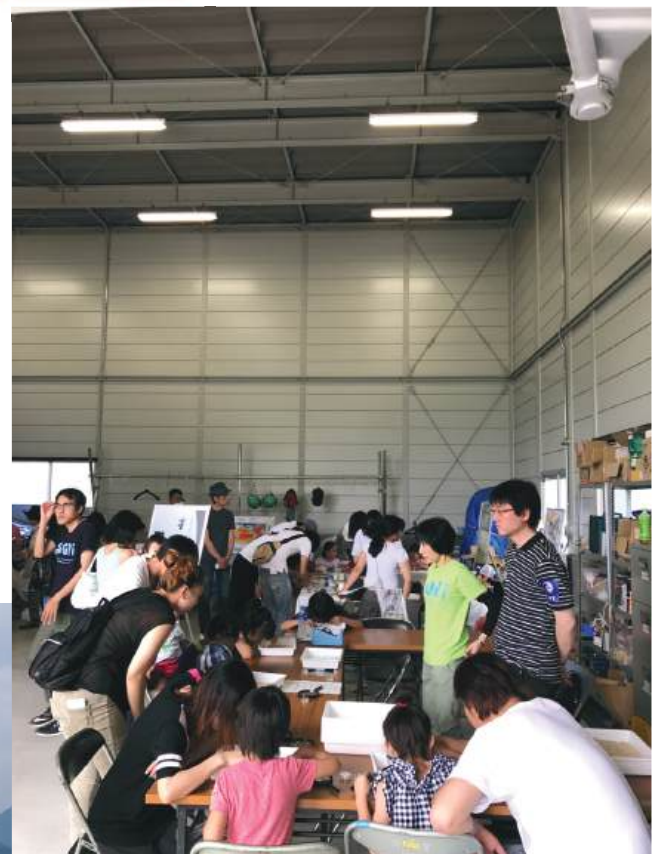
気象・海象シンポジウム（右上および左上）。震災前から毎年1回開催され、新研究実験棟では例年8月下旬頃に開催。



大学院新領域創成科学研究科の学生実習（中段・下段の4枚）。地引網やクロロフィルの測定などを実施。

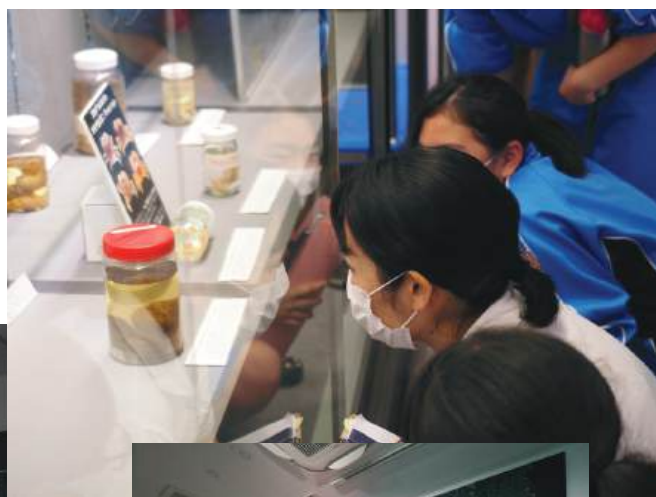


センターの一般公開を赤浜地区のひょうたん島祭と同時開催（2019年7月14日）。
係船場では調査船・弥生も公開（左下）。





旧研究実験棟があった敷地に研究交流棟として展示施設「おおつち海の勉強室」竣工（上，2020年4月18日）。三陸の海に関する展示に加え（左中，右中，右下），不定期でお話し会も実施（左下）。





「海と希望の学校 in 三陸」を代表する活動となった大槌高校はま研究会（2020年4月～）。フィールドや実験室で活発に活動（左上、採水；右上、海ごみ調査；左中、魚類標本作成；中央、環境DNA試料の濾過；右中、ソーティング）。修了証授与式も実施（左下）。



岩手県主催の
三陸マリンカ
レッジ（左
上，発表会，
2021年3月14
日；右上，セ
ンターでの実
習，2020年12
月26日）



重茂中学校では卒業までの各学年で海の授業を実施。2年生のセンター合宿には海上保安庁も参加（左中；2020年9月17日）。1-2年生の授業は社研・宇野先生とオンラインで繋いで実施（右中；2021年3月5日）



柏キャンパスサイエンスキャンプで
大槌高校はま研究会と与論高校が交流
（2023年8月1-3日）





かまいしDMCと根浜海岸で地引網体験
(左上, 右上, 2021年7月22日)



三陸鉄道との特別学習列車「海と希望の学校 on 三鉄」（左中，右中，2020年7月～）



釜石市との「海と希望の学園祭」
(2022年11月5-6日)

